

インタビュー

方式技術、OSS、オフショアに注力し、 事業へのさらなる貢献を目指す

NTTデータが全社施策として推進するイノベーションプランの核となるIT基盤を担う基盤システム事業本部。IT基盤のCOE (Center Of Excellence) として、全社最適のIT基盤整備、オープンソースソフトウェアの積極活用、Windows系技術を用いた次世代インフラ構築、次世代のオープンシステム基盤などに取り組む基盤システム事業本部の最新の状況を、遠藤宏本部長にうかがった。

ビジネスに技術をいかにミート させていくかが鍵に

—本年7月、山田伸一ソリューション&テクノロジーカンパニー長の後任として、基盤システム事業本部長に就任されましたが、カンパニー制移行後の事業本部の主要ミッションからお聞かせください。

遠藤 カンパニー制導入は、事業運営の機動性向上と関連部門の連携強化により、シナジー効果を出すのが主な目的です。基盤システム事業本部の場合は、もともとNTTデータのグループ会社を含めて、オープン系の基盤を一元的に手掛けるという役割で活動してきたので、グループ全体のIT基盤を担うというミッション自体は大きな変化はありません。ただし、「ソリューション&テクノロジーカンパニー」という名称には、「技術でNTTデータグループの事業を支えていく」という強い想いが込められていることから、私も基盤システム事業本部としてはこれまで以上に、「ビジネスに技術をどうミートさせていくか」という観点で、事業運営の仕方も少し見直す

必要があると思っています。

基盤システム事業本部がこれまで培ってきた実践に基づく豊富な経験知・技術陣をいかに事業に活かしていくかという視点で、これまで以上にビジネスサイドにシフトすることを基本に取り組んでいきたいと考えています。

—強力な技術陣を擁しているということですが、本社内組織の概要をお



(株)NTTデータ 執行役員
ソリューション&テクノロジーカンパニー
基盤システム事業本部長
遠藤 宏氏

聞かせください。

遠藤 内部組織は、システム方式技術ビジネスユニット (BU)、次世代基盤技術開発推進室、オープンソース開発センタ、MS開発部及び

取組み概要	ソリューション/サービス等	組織
方式技術		
・基盤系ミッションクリティカルシステム最適化	・ミッションクリティカル系IT基盤のオープン化 (PORTOMICS)	次世代基盤技術開発推進室
・MS、大規模イントラネット	・イントラネット基盤、仮想化基盤、シンククライアント	MS開発部
・技術ノウハウの蓄積・流通	・ナレッジ流通基盤提供、技術問合せサービス	}*
・人材育成	・ITアーキテクト、ITスペシャリスト育成	
・IT基盤のCOE、全社最適 ・高度な専門サービスの提供	・IT基盤の標準化 (システム基盤構築ソリューション:PRORIZE) ・開発方法論等 ・基盤開発請負、高度SE ・プロフェッショナルサービス (性能、故障解析等)	システム方式技術ビジネスユニット
オープンソースソフトウェア (OSS)		
・運用、セキュリティ、故障解析など厚みを持って対応する布陣 ・OSS開発からツール整備まで	・フルOSSの基盤プラットフォーム (システム基盤構築ソリューション:Prossione) ・OSS運用監視ツール (Hinemos等) ・OSSサポートサービス (Linaccident)	}*
・国際的なコミュニティへの参加	・北東アジアOSS推進フォーラム ・LinuxFoundation他各種コミュニティ活動、人材育成	
・強力な直営内製部隊 ・基盤系パッケージビジネス	・OSSによるミッションクリティカルシステムの開発請負 ・検索ソリューション (Solr, splunk等)	オープンソース開発センタ
オフショア		
・海外グループ会社	・北京NTTデータ、無錫華夏計算機技術有限公司、VertexSoftware	} *企画部
・オフショアの全社推進	・海外発注推進事務局	

基盤システム事業本部の対象分野

図 基盤システム事業本部の取組み

企画部から構成されています（図参照）。

方式技術、OSS、オフショアの3分野の取組みに注力

—それぞれの取組みの詳細は後続の頁でご紹介しますが、現在どのような分野に注力されていますか。

遠藤 基盤システム事業本部全体では、方式技術、オープンソースソフトウェア（OSS）、オフショアの3つの分野を対象に取り組んでいます。

まず、方式技術の分野では、ITベンダーが提供するさまざまな製品群を組み合わせ、ミッションクリティカルな性能・機能要件を満たすか否かの評価・検証や故障解析を中心に、IT基盤のCOE（Center Of Excellence）として、全社最適のIT基盤の整備や基盤系ミッションクリティカルシステムの最適化、Windows系技術を用いた大規模イントラネット、次世代のオープンシステム基盤などに取り組んでいます。

最近注目を集めているクラウドコンピューティングですが、これは元々NTTデータの伝統的なサービスであるデータ通信サービスに通じるものがあります。お客様にどのようなベネフィットを提供できるかという視点で取り組んでいます。

OSSの分野は、開発からOSS周りのツール整備まで総合的に取り組んでいます。フルOSSの基盤プラットフォーム（Prossione）やOSS運用監視ツール（Hinemos）、OSSサポートサービス（Linaccident）

の提供など、運用、セキュリティ、故障解析を含め強力なラインナップで対応しています。また、OSSによるミッションクリティカルシステムの開発も請け負える内製部隊を擁しています。実際、非常にトランザクション量の多いシステムや大規模のデータベースを高速処理するシステムなど、ミッションクリティカルな領域でのOSS活用について、実案件を多数手掛けてきました。

さらに、技術開発本部と連携して、国際的なコミュニティ活動への参加も積極的に行っています。OSSについてもCOE的な意味合いを追求していきたいと考えています。

また、国内のOSS開発リソースをオフショアのリソースと組み合わせるなども視野に入れて、OSSビジネスのみならず当社の開発体制そのものを変革・発展させていきたいと思っています。

—この7月にはBNIシステムズの株式を取得するなど、オフショアの分野は相当注力されていますね。

遠藤 NTTデータは、SI競争力強化の一環で、海外発注のさらなる推進に取り組んでいます。今回、BNIシステムズがグループに入ったことで中国の無錫華夏計算機技術有限公司が加わり、直営子会社の開発要員は、北京NTTデータ等と合わせて1,000名を超える体制になりました。現在、北京NTTデータと無錫華夏は日本からのオフショア開発、インドのVertex Softwareは日本・欧米からのオフショア開発拠点として機能しています。

また、海外発注のやり方の質的向上と量的拡大を図るために、海外発注推進事務局を設置して、サポートしています。

2011年にはプログラマ、プロジェクトマネージャ、ブリッジSEなどを含めたオフショア開発要員体制を2,000名規模に拡大することを目指しています。

国内と同様の取組みを海外にも展開

—最後に、遠藤本部長の今後の抱負をお聞かせください。

遠藤 今後も難易度の高い案件がたくさん出てくると思いますので、私どもはIT基盤のプロ集団として組織能力を上げ、これに対応していきたいと思っています。NTTデータグループの営業部隊・開発部隊が、お客様との対応や業務ノウハウの獲得などに専念できるように、私どもが担当する事業領域をさらに拡大させていきたいと思っています。キーワードは「ワンストップ」です。

また、NTTデータの中期経営の重点施策の一つとして、グローバル事業の強化拡大があります。基盤システム事業本部がNTTデータのグローバルな営業活動、あるいは開発活動を支える部隊として機能するように、これまで国内で行ってきたと同様の活動を海外でもさらに展開していきたいと思っています。

—本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）